



昨年までは夏のオリンピックの関係で海の日が移動したり名称が変わったりしましたが、今年からは通常通りになりました。各地の海の様子がニュースで流れていましたが、3連休で一足早く夏休み気分を感じられたでしょうか。

連休明けは、にじ組もさくら組も最後の片づけをしました。にじ組はみんなで廊下拭きもしてくれました。さすが年長です。雑巾も上手に絞っていました。

明日からいよいよ夏休みです。



絵本ノート特集

ご協力ありがとうございました。夏休み・2学期もよろしくお祈りします。

活字離れや出版業界の不況が言われていますが、絵本は売り上げが伸びているそうです。

出版科学研究所によると、2021年の絵本市場は前年比7%増の353億円と好評だったそうです。「パンドロぼう」などの話題作がSNSで紹介され、読者層は大人にまで拡大しているといわれています。絵本の定番作品の多くは、実際に手にとってページをめくって欲しいとの理由などで電子化されていないため、紙書籍の需要が高いということです。(6月28日付読売新聞参考)

さて、幼稚園では読書活動として、毎日“お帰り”の前に担任の先生が子供たちに絵本を読んでいます。(読み聞かせ) また、毎週木曜日に絵本の貸出と返却を行っています。その際「絵本ノート」に貸出した本を記録し、お家の人が本の読み聞かせをしてくれた時、子供の様子や絵本の感想を“ひとこと”欄に記載してくれます。園長がお家の人の“ひとこと”に赤でコメントを書き、次の木曜日に新しく貸出した絵本とともに家庭に持って行きます。この取り組みを始めてから3年目になりました。お家の人からたくさん感想を書いてもらっています。

【お家の人の感想 (一部紹介) ○さくら組 ●にじ組】

- 「ふたりではんぶん」の本はとても気に入っていて何度もくりかえし読んでいます。半分には出来ない時はどうしたらよいか自分なりに考えている様子が見られました。(K. Y)
- 「かぞえてみよう」ろくのかたちのかたつむりがいちばんすきです。たくさん数を数えました。(K. M)
- 娘は借りる本のシリーズが決まっているようです。図書館に行くところがあるので気づくと(本を)抱えています。おばあちゃんにも読んでもらってご満悦です。本好きになってくれて嬉しいです。(T. K)
- 寝る前に(小1の)娘が読み聞かせをしています。読んでほしい息子、読み聞かせをしてあげたい娘、二人の欲求は満たされ、あっという間に寝ました。(K. M)
- ノントンはめくるたびに笑っていました。“もぐもぐ”といいながらほっぺをさわって楽しく読みました。(Y. R)
- 珍しく文字数の多いお話たちで途中ダレながらもなんとか最後まで聞いていました。(F. R)
- 自分でつかまえてきた虫と本の虫を比べて見ていました。(T. S)
- ノントンおはようを何度も読んでいました。少しずつ読めるようになってきました。(S. H)
- 毎日1ページずつ1年かけて読む「アナと雪の女王」の本を兄が音読してくれています。3分間集中が続かなくて兄が怒っていますが、二人ともがんばっています。(A. H)

○「お兄ちゃん（年長）読んで！」「いいよ～」読み聞かせの始まりです。二人で向かい合わせになってやっています。その時は仲良しです。何かやってもらいたい時は「お兄ちゃん♡」甘えています。

(K. A)

○ブラウニーが雨雲を洗濯してお天気になるところが楽しかったようです。最近では私が読むだけでなく一緒に自分の読める平仮名を声に出して読めるようになりました。(M. Y)

●虫や花や、見て触って育てて自然に勉強が身についているようで助かっています。(E. S)

●凶鑑「新幹線」いろいろなしんかんせんがあったのしかった。…本人の感想 (B. A)

●読みながら、カタカナをあいうえおの表と照らし合わせて調べています。時間はかかりますが、隣で見ていて感心します。(T. H)

●「おにがでた」「どろきょうりゅう」家に帰って来てすぐに一人で読んでいました。少し長めの絵本を一人で読めるようになりました。(S. Y)

●何度も何度も自分の前に弟やひいばあちゃんを座らせて読み聞かせ。絵本をちゃんとみんなの前に向けて読んでくれます。けっこう感情がこもっています。笑えます。

・最近本が大好きになりました。カタカナも読める字が多くなり、朝、幼稚園バスの時間になる前に読んでいます。(K. H)

●「かえうた かえうた こいのぼり」こいのぼりがとても好きで、大きなこいのぼりをあげているお宅を覚えていて道を通る時にそっちに行きたがりました。絵本を読みながら楽しそうに歌っていました。(A. K)

●今回もしぜんシリーズでした。この本は今まで知らなかった事や知りたかった事を分かりやすく書いてあるので子供たちも最後まで飽きずに読めます。なかでも、今回「からだ」は興味津々でした。汗をかく、あくびが出る、食べたものはどうなるのかなど日常生活の中でのギモンを知ることができました。(N. K)

●「ふしぎなタネやさん」(息子は)もし、不思議なタネが手に入ったら、たくさん「ナンバーブロック」がなる木がほしいそうです。

・2021年5月から、幼稚園から借りてきた絵本を一緒に読むことが、とても楽しい活動になりました。ありがとうございました。(S. T)

…いつもひとこと欄にいろいろ書いてくれてありがとうございました。アメリカでもいろいろな本を読んでください。

7月14日(木)今学期最後の貸出日でした。今回は最後なので5冊の貸出をしました。これから、始まる長い夏休み、お家の人も一緒に絵本を楽しんでください。



〔園長の深読み〕

*2月24日、突然世界情勢がとんでもない状況に変わってしまいました。

ウクライナ民話『てぶくろ』とロシアの昔話『おおきなかぶ』が書店に並んで置かれているという話を聞きました。どちらも子供たちに人気の絵本です。

『てぶくろ』は「さまざまな動物たちが手袋の中で仲良く暮すお話」というのが一般的な内容紹介となっています。でも、『てぶくろ』のお話の結末はこいぬに吠えられ、手袋の中の動物たちは散り散りに逃げていくのです。手袋の家をたくさんの動物たちがシェアして仲良く暮らしました。お・し・ま・い! ではないのです。この結末は何を意味しているのでしょうか。

『おおきなかぶ』は皆さんがよく知っている通り、おじさんの育てた大きなかぶをみんなで協力して抜いたところで終わっています。ところで、おおきなかぶを抜いた後、そのかぶはどうしたのでしょうか、みんなで仲良く食べたのでしょうか、と何やら気になってしまいました。

絵本ノート（にじ組）



＜田んぼを見に行きました＞

イネが大きくなったね。みんなの胸位になったかな。

もっともっと大きくなるようにパワー注入！



朝と帰りの幼稚園バスが田んぼの近くを通ると「このちかくのたんぼだね。」と子供たちの声が聞こえてきます。自分たちが初めて体験した田植えは子供たちに印象深くあるようです。

7月14日に植えた苗が大きくなったかバスで見に行きました。子供たちは青々としたイネを見ていろいろな思いが湧いて来たようです。「胸くらい、みんなのおっぱいくらい」という高さの表現に子供たちは自分の体で高さを確認していました。

＜ピジョッコファームでとれたジャガイモを食べよう＞



ファームでとれたジャガイモはたくさん持ち帰り、それぞれのお家でいろいろ工夫して食べたようです。幼稚園でもみんなで子供たちが大好きな「ジャガイモ餅」を作りました。一人一人がラップに包んで丸めアツアツに焼いて一人1個試食しました。みんな「おいしい。おいしい。」と言って食べました。ジャガイモ大活躍です。自分たちで種イモを植え、育てたものを調理して食べた記憶はずっと残るのではないかと思います。

＜夏野菜の絵を描こう＞



ピジョッコミニファームでとれた野菜を、にじ組のみんなで絵を描いて野菜かごに入れました。本物の夏野菜もたくさん持ち帰ることができました。……みんな食べてくれたかな？

<ピジョっこファームだより>

にじ組がまいたボンボンハクニチソウ

*花が咲きました。



例年になく早い梅雨明け。その後記録的に暑い日が続き、鳩山が本日の一番暑い日を更新していましたが、今度は一転、観測史上最大の雨量を観測。園庭の花壇やピジョっこファームの野菜が水不足でカラカラになっていたところ、大量の雨で畑のヒマワリは倒れ、ネギは根がむき出しになり、黒大豆はこれから地上に芽を出そうとしていたところで土が流され、土から豆もやしが生えているような状況になってしまいました。あちこちに被害の爪痕が残っています。

【ピジョっこファームの様子】



それでも子供たちは色々な夏野菜を持って帰ることができました。グリルして食べたという話も聞きました。

食育に繋げていきたいです。ぜひお家での様子を聞かせてください。

無残な姿になってしまいましたが、また復活できるように手入れをしたいと思います。

<7月のピジョっこフォト>

【7・8月のお誕生会】

園のホームページにも日々の活動を随時アップしています。



早いもので1学期が終わりました。やっとコロナ禍が落ち着き通常の生活に戻って来たかと思ったら、ここに来てどんどん感染者が増えてきてしまいました。気を付けながらご家族で有意義な夏休みをお過ごしください。夏季保育でまた会いましょう。

【七夕様】

【お別れ会】



お知らせ 【大和君の詩が引用されました】

読売新聞 2021年2月10日の「こどもの詩」に掲載された渡邊大和君の詩「成長」が、八千代出版から出されている教職を目指している学生向けのテキスト（教科書）の第1章 道徳教育の意義と課題 第1節 子供という存在—「道徳教育」を問う前に—の冒頭で引用されたことを大和君のお母さんからお聞きしました。一編の詩が様々な形で活用されることに『ことば』の力の大きさを感じました。また、本園の名前がテキストに記載されていることも誇りに思いました。

「成長」 渡邊大和 (埼玉県鳩山町・鳩山幼稚園年長)

ぼくはしぜんに
そだっちゃうんだよ
そういうふうになっているから